



県内市町で唯一 全国広報コンで2年連続入選

地方自治体などの優れた広報作品を表彰する全国広報コンクール(日本広報協会)の写真部門(一般)で「広報南島原(2016年6月号)」の表紙写真が入選しました。

写真は平成27年度おいしい南島原フォトコンテストのグランプリ作品で林田拓郎さん(西有家町)が撮影したものです。

今後も市民の皆さんに「伝わる」広報を目指して旬の情報をお届けしていきます。



県内初 フィリピンから 英語教師を採用

平成32年度から全面実施となる小学校の新学習指導要領では、現在、小学校5・6年生で行なっている外国語活動を小学校3・4年生で実施し、5・6年生では教科として実施されます。

このような中、本市では世界に羽ばたく人材育成を目指して、フィリピン共和国から英語指導助手3人を採用します。

市独自の採用は県内初の取り組みです。

フィリピン共和国は、世界第1位のビジネス英語力を持つとの調査結果もあります。3人は市教育委員会に勤務した後、各学校で英語の指導に当たる予定です。



南島原食堂がリニューアル

昨年度「おかえりなさい」のおもてなしと、そうめんをはじめとする本市の食材をふるまってお好評をいただいた「南島原食堂」が4月30日にリニューアルオープンしました。

今回は16種類のそうめんを使った「おかえりそうめんセット」に加え、料理上手な地域のお母さん手づくりの「とんさか母ちゃん定食」や「惣菜」などを楽しむことができます。

☎南島原食堂 ☎080(8395)2435 [南島原食堂](#) 検索

※営業日などは「南島原食堂」のホームページをご覧ください。



29年度の民泊受入がスタート

4月20日から21日にかけて、南島原ひまわり観光協会は民泊での修学旅行の本年度第1段として、滋賀県の甲西中学校3年生120人の受け入れを行いました。生徒たちは各受入家庭に3~5人ずつに分かれて宿泊し、その家庭で農作業や料理作りなどを体験し、離村式の際には別れを惜しんで涙を流す姿も見られました。

この民泊事業は、昨年の熊本地震の影響で激減したものの、今年度の予約状況では、2年前の水準まで回復しています。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。



400年前のセナリヨ授業を再現

4月29日~30日の2日間、北有馬町で約400年前のセナリヨ授業を再現しました。

授業再現には市内の38人の中学生が参加し、当時の日課表に基づきラテン語、西洋音楽、武家社会のたしなみであった茶道などを体験しました。また、翌日には原城跡や日野江城跡、日野江の城下町などの現地巡りも実施しました。



表面「南蛮流医薬書」

裏側「阿波郡新開見付之帳」

島原・天草一揆後の島原移住に関する 古文書を発見

市では、島原・天草一揆後に徳島県から南島原市へ移住したことを裏づける貴重な古文書を、口之津歴史民俗資料館の所蔵史料の再調査で発見しました。

発見した古文書は、慶長18年(1613年)に記録された「阿波郡新開見付之帳」といわれる検地帳で、一揆後の移住に伴い持ち込まれたものと考えられます。

また、古文書には両面に記載があり、現在の表面は医薬書とされ、当時は紙が貴重であったことから、検地帳の裏側を再利用して書かれたものとみられています。

Focus in 南島原 まちの話題



親を想う心を受け継ぐ 孝子祭

4月24日、加津佐町津波見地区で「孝子祭」が開催されました。この祭りは親孝行で讃えられた安永安次さんのように家族を大切に、あたたかい心と思いやりの道徳心を養い、子どもたちの健全育成を図る目的で実施されています。

式典では森川空臥くん(小学5年)が「安永さんを見習って家族や地域の人たちを大切にしたい」と祭文を述べました。



復興への思いを いつまでも

3月5日に開催された東日本・熊本復興支援イベント「第5回リメンバー 3.11」で来場者から寄せられた寄付金を、本市が独自支援を行っている南三陸町および熊本県の復興の一助となるよう、4月27日、イベント実行委員会の隈部和久会長が、市へ寄託しました。

隈部会長は「今後も被災地への支援を継続していきたい。」と語りました。